

発行：堺アートカウンスル（堺市文化観光局文化国際部文化課内）  
発行日：2023.7.24（不定期に発行） お問い合わせ：bunka@city.sakai.lg.jp

### 開催レポート |

#### 地域でのアート活動を学ぶ勉強会

##### 第1回 テーマ「企画・協働」

堺アートカウンスル（堺AC）では、例年、文化芸術活動を行っている方や、これから取り組んでみようという方に向けた勉強会を開催しています。去る6月26日は「企画・協働」をテーマに「広げつつ自分たちも磨く協働」と題し、私、プログラムオフィサー（PO）の柿塚が講師として話題を提供し、今年度初めての勉強会を実施しました。


上田假奈代プログラムディレクター（PD）の挨拶、勉強会の趣旨説明の後、中脇健児POが進行をします。中脇POは勉強会、全4回を通じての進行役であり、講師と参加者の仲介役です。まずは参加者の自己紹介から。顔見知りから初めて会う人まで、それぞれがどのような活動をしているか、今日の勉強会に何を期待しているのかを共有します。

その後、私が勤める神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団による「こどもコンサート」を取り上げました。この公演の目的は「年齢や障害を越えてあらゆる人が劇場に、コンサートに歓迎されること」。そのために環境はリラックスして、舞台上は本気で、ということが「協働」を通じて実現され、それが事業や事業

実施者の水準を上げることに繋がっている、と話しました。

例えばコンサートの前に「支援学校でのアウトリーチ公演」を行います。ここでは支援学校の日常生活や雰囲気をお伝えしながら公演を実施。障害のある児童・生徒のケアやグループ分け、会場の設営等は先生方へお任せします。そしてその時に打合せや公演で先生方や子どもの反応から学んだことや注意点を、その後のコンサートでの来場しやすい会場設営や客席の雰囲気づくりに反映させます。また公演のチラシのデザインに障害者アート作品を使用し、公演の趣旨をデザインでも表現したり、ひょうご障害者芸術文化活動支援センター（兵庫県庁内）にチラシ配布やメール配信の協力を得るなど広報面でも協働をしています。これらのことはお互いの既存の知識や仕組みを交換し効率的に目的を達成すると同時に、相手の視点を取り入れることで、自らだけでは気付かない改善点を掘り起こし企画そのものが磨かれることにも繋がります。

**こどもコンサート** 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団



- 障害のある人、0歳児、家族
- 支援学校、図書館でのアウトリーチ
- こども向けワークショップ
- クラシック音楽、新作委嘱初演
- 会場の工夫
- 広報の工夫

勉強会でのスライドから



こどもコンサートの様子 (c)小澤秀之

勉強会では最後に参加者同士で意見交換をしました。講座の内容に加えて、自身の活動での悩みや、それぞれの分野に沿って具体的なアドバイスを求めるなど話が弾んでいました。

オーケストラと合唱団によるコンサートと聞くと規模が大きなものに見えますが、電話をして協力を依頼したり、細かいことを一つ一つ重ねて、協働を進めていることが伝わっていただければいいなと思っています。

(PO・柿塚拓真)

## 開催レポート |

### さかいとあーと井戸端かいぎ 第1回

#### ゆるく話そう。地域とアート、つながりづくり



「さかいとあーと井戸端かいぎ」は、堺市内でさまざまな活動がされている方同士がつながり、ざっくばらんに語り合う場として昨年度から始まりました。今年

度は、「教えて！あなたの『堺とアート』」というテーマで、1回目の井戸端かいぎを開催しました。

今回はあらかじめ3つの質問（①教えて！あなたの『堺とアート』、②「協働」と聞いて思い浮かぶことは？、③お困りごと・お悩みごとはありますか？）を用意。参加者は5～6人毎の6グループに分かれ、1つの質問ごとにグループ替えを行い、ワールドカフェ方式でいろいろな方と話ができるようにしました。参加者は音楽、書道、演劇などさまざまな分野にわたり、また子どもに向けた遊びと居場所の取組をされている方などもいて、「堺でそんな活動をしている人がいたなんて知らなかった」という声も。一方で、お困りごととしては、多くの方が資金面で苦戦されている様子が伺えました。「もっと話したかった！」という感想が出るほど熱気にあふれた井戸端かいぎになりました。(PO・川那辺香乃)

★令和5年度の勉強会・交流会の開催日時は、ホームページの「勉強会・交流会」ページ（右記QRコード）に記載しています。また、開催が近くなりましたら公式Twitterでもご案内します。ぜひフォローしてご活用ください。



## 『組織との協働とアーツカウンシル』

堺アーツカウンシルでは、文化芸術活動を行う個人や団体だけではなく、中間支援組織の相談・支援事業も行っています。昨年から(公財)堺市文化振興財団とともに市内各所の文化施設職員等に向けた地域や社会の課題解決につながる企画立案の研修事業を行い、病院やこども食堂、福祉施設と連携し企画を実践していく段階になっています。

私はもともと公共文化施設で働いており、地域と協働で手がける企画を数多く手掛けてきました。学校、商店街、企業、NPO、市民団体といった様々な方と連携する中で実感したことは、文化芸術は教育や商業、医療や福祉など他

## プログラムオフィサーのリリースコラム

のジャンルととても相性が良いということですので。協働相手単独ではリーチできないことにおいて文化芸術が潮目を変えるキッカケになっていました。

多様な人たちと協働していく時代や社会に対し、文化芸術にできることは実はまだまだあるのかもしれませんが。中間支援を担う組織の皆さんからの相談に答えていく活動は少しずつ拡がりを見せ、現在、(福)堺市社会福祉協議会の相談に応える形でモデル事業もスタートし始めています。このコラムを読んで「それなら、うちの話を一度聞いてほしい」と思った方、ぜひお気軽に堺アーツカウンシルまでご相談ください。(PO・中脇健児)

堺アーツカウンシルでは、堺市ホームページ、Twitterなどで、情報を発信しています。

ホームページ：堺市ホームページ (<https://www.city.sakai.lg.jp/>) 内。

画面右上「目的別検索」にて「堺アーツカウンシル」で検索。

Twitterアカウント：@SAC\_sakaibunka



ホームページ



Twitter